

認知症対応型共同生活介護（グループホーム）							
		23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度
		入居者数	入居者数	平均介護度	平均介護度	平均年齢	平均年齢
	4月	8	9	2	2.6	87.5	89
	5月	9	9	2.1	2.6	87.5	89.4
	6月	9	9	2.1	2.7	87.9	89.4
	7月	9	9	2	2.8	87.9	89.4
	8月	9	9	2.1	2.8	88.7	89.4
	9月	9	9	2.1	2.8	88.8	89.6
	10月	9	9	2.2	2.5	88.9	89.1
	11月	9	9	2.2	2.7	89	89
	12月	9	9	2.2	2.8	89	89
	1月	9	9	2.2	2.8	89	89
	2月	9	10	2.2	2.3	89.2	89.2
	3月	9		2.2		89.3	
	平均	8.9	9	2.1	2.7	88.6	89.2

〈実績報告〉						
小規模多機能居宅介護						
①登録者、介護度、年齢						
	23年度 登録者数	24年度 登録者数	23年度 平均介護度	24年度 平均介護度	23年度 平均年齢	24年度 平均年齢
4月	17	17	1.3	1.3	84.9	85
5月	18	15	1.4	1.3	83.7	86
6月	18	16	1.5	1.4	83.8	85
7月	17	17	1.5	1.3	85.4	85.6
8月	15	15	1.5	1.4	86.5	85
9月	16	15	1.5	1.7	86.9	85.7
10月	18	15	1.4	1.7	87	85
11月	17	15	1.3	1.8	87	85
12月	17	15	1.3	1.9	87	85
1月	16	15	1.4	1.9	86.5	85.6
2月	16	17	1.3	1.9	86.3	85.6
3月	17		1.3		85	
平均	16.8	16	1.4	1.6	85.8	85.3
②サービス内容						
	23年度 通い回数	24年度 通い回数	23年度 訪問回数	24年度 訪問回数	23年度 宿泊回数	24年度 宿泊回数
4月	231	218	118	112	3	2
5月	280	210	131	113	6	3
6月	230	202	116	99	8	3
7月	276	217	120	97	9	3
8月	234	173	113	93	12	2
9月	230	174	127	103	4	3
10月	247	183	127	92	9	4
11月	245	191	130	119	4	2
12月	222	187	127	133	5	3
1月	210	172	119	116	3	2
2月	220	177	103	118	2	2
3月	228		116		1	
平均	237.8	191	120.6	108.6	5.5	2.6

〈情報交換・事例検討〉					
1.石丸地区					
2.赤間地区					
3.吉武地区					
4.看護大学より					
5.市役所より					
6.鹿島部長より					
7.事例検討					
〈その他〉					

議事録

2025年3月25日

2024年度 3月運営推進会議		<p>出席者：</p> <p>大津委員長（グループホーム家族代表） 有馬副委員長 合屋委員 後藤委員 鹿島部長（代表者） 山中委員（小規模家族代表） 村田委員（宗像市介護保険課） 西村委員（看護大・知見者） 清松（管理者） 桑原（小多機 CM）</p> <p>欠席者：添田 CM</p> <p style="text-align: right;">書記：清松</p>
自：10：30	開催日 城山庵グループホームフロア	
至：11：30		
<p>議案</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長挨拶 2. 城山庵実績・行事報告（計画） 3. 外部評価報告（小規模多機能） 総括表について 4. 地域の情報共有・事例検討 5. その他 		
1. 大津委員長挨拶	<p>宗像市のニュース</p> <p>全国で住みたいランキング1位が宗像市 県内でかっこいい名前2位宗像市 推進委員になって介護について沢山学びがあった。（任期終了）</p>	
2. 城山庵実績・ 行事報告	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模多機能・グループホームの実績を資料に基づき報告した。 ・小規模多機能は他事業所の閉鎖に伴い、2名の新規利用あり。 入院2名あり、3月の実績は下がる。 ・グループホームは入退所あり、介護度は下がった。 女性利用者のみとなった。 ・行事ではボランティアの受け入れ多くできている。 ・気候も良くなり、ドライブや散歩を実施できている。 ・4月より、加算が変更となり、グループホームは医療体制強化加算Ⅱの取り下げ、小規模多機能は総合マネジメント体制強化加算Ⅱを新たに加算することになった。 ・利用者家族アンケート実施。 	
3. 外部評価報告 （小規模多機能） 総括表について	<ul style="list-style-type: none"> ・推進委員の地域かかわりシート提出が終わり、総括表を作成し、確認を行った。 今後もさらに取り組み内容の発信を活発に行っていく。 ・異議なしにて今年度の小規模多機能外部評価を終了とし、ホームページに公開する。 	
4. 地域の情報共有・ 事例検討	<ol style="list-style-type: none"> 1. 石丸地区 <ol style="list-style-type: none"> ① 2/23-24 文化祭を行った。展示が中心になった。来年度は城山庵からの展示、ストレッチ体操の参加検討。 ② 3/23 地区の総会があった。 課題は防災と高齢者であり、独居のかたをどうしていくのか。 情報共有の大切さを実感している。 	

<p>5.その他</p>	<p>2. 赤間地区（後藤委員）</p> <p>① 2/22-23 赤間宿祭り開催した。 人出はコロナ前より減っている印象。</p> <p>② 3/23 総会開催。来年度はコロナ前の取組みに戻していく。 祇園祭、夏祭りなど。 いきいきサロンも開催している。 委員や利用者家族として8年関わって来られた。（任期終了）</p> <p>3. 吉武地区（合屋委員）</p> <p>吉武の民生委員を歴任してきたが、現委員を推進委員に入れるともっと現状等がわかると思われる。赤間病院は吉武地区にとって中心的な病院である。色々勉強になった。（任期終了）</p> <p>4. 看護大学より（西村委員）</p> <p>看護師国家試験が終わり、多くの学生が合格となった。 4/3は入学式が執り行われる。 県外の学生も多いので新入生の地域へのボランティア参加を促していく。</p> <p>5. 市役所より（村田委員）</p> <p>来年度も人材確保の補助金など継続していく。詳細は分かり次第報告する。</p> <p>6. 鹿島部長より</p> <p>7月からの就任で在宅介護についてわからないこと多かった。 今後も勉強していく。 社会福祉就職フェアに参加したが、介護福祉士は来なかった。 入退院に興味のある学生が多かった。</p> <p>7. 山中委員</p> <p>城山庵での取り組みを知ることができた。 行事参加の案内をお願いしたい。（任期終了）</p> <p>8. 事例検討</p> <p>介護度がまだ出ていない方からの相談があった。 その他グループホーム入所希望の相談等数件来ている。 地域にはまだ困っている方やご家族がいると思われるので相談しやすい事業所を目指していく。</p> <p>特になし。</p> <p>次回開催：5月27日（火）10：30～11：00 城山庵グループホームフロア</p>
--------------	---

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	医療法人光洋会	代表者	鹿島 由紀子	法人・事業所の 特徴	「ご利用者が自分らしく生活することを支援します」を運営理念に掲げ、その方らしい活動ができるよう、運動や手作業等に取り組んでいただいている。通いと訪問、泊りの組み合わせにより、在宅生活の継続を支援している。地域との交流を目的に保育所や中学校との連携を行っている。
事業所名	城山庵	管理者	清松 美雪		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1	1	3 人	人	2 人	人	人	4 人	人	11 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	具体的内容についてわかりやすく表示方法を工夫する。推進委員に施設の内覧機会を設ける。	運営推進会議を年度途中より事業所内で行い、活動内容を知ってもらう機会を設けた。	コロナ禍に比べ、取り組み内容がわかりやすくなった。	職員がどのように業務に取り組んでいるのかが分かるよう発信していく。自己評価・外部からの評価をしやすい開かれた取り組みを行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染対策と共に、来訪者にとって居心地のいい空間を作れているか定期的に評価する。	行事や運営推進会議など、外部の方が来訪されるタイミングで事業所内の居心地の確認をし、手指消毒の促しなどにより感染対策も行った。	クラスターなどなく良かった。	季節感のある行事等を行い、家族や地域の方が立ち寄りやすい雰囲気作りを心掛ける。
C. 事業所と地域のかかわり	地域包括との連携を通し地域とかかわりを深める。外出行事を計画し地域と関わる機会を増やす。	ボランティアの受け入れを積極的に行った。行事の地域の方や家族の参加を促した。コミュニティセンターの行事にも参加した。	行事に参加ができ、普段の様子を知ることができた。	電話などでの相談でも真摯に向き合い、他事業所との連携で在宅生活を続けていけるよう支援する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	地域の広報誌によりイベントの情報を早い時期に収集し、計画的に参加を企画する。	コミュニティセンターでの行事に参加できた。(展示も含め)地域のゴミ拾いを行った。	おたよりなどにより、地域参加がわかった。	ゴミ拾いをきっかけに地域に溶け込めるにし、地域行事での相談受付など積極的に行っていく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	感染対策の観点から書面会議を余儀なくされたが、今後は運営推進会議で定期的に事例検討を行っていく。	個人情報に気を付けながら地域の中で暮らしている方の困りごとや対応を知ってもらうことができた。	認知症や独居の問題はどこにでもあることがわかった。	事例検討により、地域に実際に暮らしている方々がどんな困りごとがあるのか情報共有していく。
F. 事業所の防災・災害対策	運営推進会議を通し、避難訓練の様子を報告する。訓練予定を運営推進委員に連絡し参加を計画する。	運営委員に参加してもらうことができた。実際の訓練での問題点を知ってもらうことができた。	避難が迅速にできていた。	火災だけでなく、災害時にどう対応するのかを地域に発信し、協働できるような情報共有する。